

### 多摩川小学校の取り組み 武蔵新田商店街を元気にするプロジェクト

12月9日(土)13時半に多摩川小学校の教員、たまサポ、たまパパ、おやじの会、および地域のサポーターが多摩川小学校の正門に集結し、「武蔵新田商店街を元気にしよう大作戦」を展開しました。

3年生が作成した旗が80枚、商店街の街灯に取り付けられました。脚立に登る人、支える人、歩行者を誘導する人、皆の協力を得て武蔵新田の駅から商店街を飾る旗が取り付けられました。

この活動は、大田区商店街戦略的PR事業費補助金と矢口地区自治会連合会協力金により実現できました。子どもたちが地元商店街の現状を理解し、自分たちにできることを考え、人の役に立ちたいという志を育てたい、地域に愛着

をもち試行錯誤しながら、課題解決に向けて楽しみながら学ぶことができ、また友だちとかかわりながら互いの考えのよさを認め合い、実現に向けて協力しあえたことは、大変喜ばしいことです。

この多摩川小学校の児童たちの願いが叶い武蔵新田商店街が元気になることを願います。



児童が作成した旗



旗が飾られている商店街

### 餅つき大会が行われました

12/3下丸子四丁目町会 12/10 矢口北町会



大盛況の会場



賑わう会場



餅つき風景



石臼での餅つき

### 「クイズで脳トレ」認知症予防講座 ~ザ・リバーフェイス自治会~

認知症予防において新しいことや楽しいことに触れたり、外出することで脳に刺激を与えることが大切です。

11月12日(日)「秋のリバプレの日」の一環として認知症介助士、新田英生氏を迎え「クイズで脳トレ」認知症予防講座を開催しました。

第一部では大人、第二部では子ども、それぞれ20名が参加。参加者全員で思いつく果物の名前を言い尽くすまで続けるゲームや最初の人「単語」をジェスチャーで次の人に伝え、最後の人その単語を発表する連想ゲームなどが行われ、思い出す力や考える力を刺激し、脳トレにとっても効果的であると感じました。

(安達 徹也)



講座の様子

### 多摩川小学校2年生のセーフティ教室

10月14日(土)「自分の命は自分で守ろう」、講師は奥田悦子先生。このセーフティ教室は、矢口地区の6自治会・町会が支援し毎年開催しています。

講義は火事の時に①ストップ&ロール(止まる&転がる)走って逃げると火が空気を吸って燃え上がるので、止まり転がって身体についた火を消す②タッチ(触る)逃げる時に姿勢を低くしドアノブには触らないで手の甲を使いドアにタッチ。手のひらだとドアが熱くなっていると火傷する③逃げられなかった場合は床に伏せ声は出さずに音を立てる。生徒達は楽しそうに指示通りに走り回っていました。基本的なことを体験しながら学ぶことは大事ですね。



講義中の様子

<編集後記> 何かと「税」のニュースが多かった昨年の漢字は「税」でした。今年がオリンピック年なので、最有力候補は「金」でしょうか。「金」メダル、「金」字塔などが期待されますが、いずれにしても前向きで明るい話題から選ばれてほしいものです。(阿部 雅之)



### 矢口シニア健康サロン2023

11月16日(木)矢口地区自治会連合会主催のイベントに参加しました。矢口特別出張所で「認知症と物忘れの違い」の講演が社会福祉法人徳心会いずみえんの川見駿斗氏からありました。7月号にも同じ講演の記事を矢口トークに載せましたのでご覧ください。早い時期に認知症と分かり治療する事で、進みを抑えることが出来るようです。講演の後は矢口区民センター体育室に移動し、エアアゴに体験をしました。

**スポーツエリア**：①輪投げ 5メートルの距離から投げ、輪が入った得点を競うゲーム②カーレット カーリングを小さくしたようなゲーム。指に挟んで押し出し、近くに寄せ、2チームで競うゲーム。どちらのゲームも誰でも出来、シニアクラブ会員の指導のもと楽しそうに何度も挑戦していました。

**お楽しみエリア**：①脳トレではプリントの漢字、計算等チャレンジ②国際交流員の英国の女性と英語のカードゲーム及び国際都市おおた大使の男性によるインドネシアのじゃんけんゲーム。

**健康測定エリア**：血管年齢検査、骨密度測定、ベジチェック(野菜の摂取量測定)

切手整理等のボランティア活動など会場は久しぶりの交流会場となり和やかに会話し、体を動かして楽しそうでした。



健康測定エリア

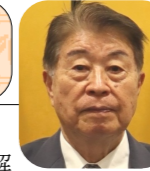


発行 地域力推進矢口地区委員会  
編集 矢口トーク編集委員会  
事務局 矢口特別出張所地域力推進係  
〒146-0093 大田区矢口2-21-14  
電話(3759)4686 FAX(3759)1492  
ホームページアドレス  
[https://www.city.ota.tokyo.jp/kamata/ts\\_yaguchi](https://www.city.ota.tokyo.jp/kamata/ts_yaguchi)

矢口特別出張所管内の人口(1月1日現在)

人口	44,099名	世帯	23,740世帯
----	---------	----	----------

### 皆様 新年おめでとうございます 矢口地区自治会連合会会長 山本幸男



辰年の新春を恙無くお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃は矢口地区自治会連合会の事業行事にひと方ならぬご理解とご協力を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

誠に残念な事柄ではありますが、令和6年辰年の新春は元日から暗転に包まれて過ぎ去ろうとしています。元日には「能登半島地震」が、また翌2日には羽田空港において「日航機の炎上事故」と連日の災害情報に接し暗澹たる気持ちに陥りました。被災者の皆様方に衷心からお見舞い申し上げます。出来事でした。被災者の皆様方に衷心からお見舞い申し上げます。

さて、4年前に端を発した新型コロナウイルス感染症は、昨年5月に感染症分類上の位置づけが第2類から季節性インフルエンザ並みの第5類に移行されました。これを機に、社会を取り巻く環境はコロナ発生前の日常、すなわち普通の生活を早く取り戻そうとする動きが活発になりました。それ迄は、「ステイホーム」が優先する日常を過ごしてきた私たちにっては一転しての環境の変化でした。4年間に及ぶ自治会活動の停滞は、私たちを取り巻く環境に少なからず影響を及ぼしたことを肌身に感じつつ、安全・安心な「アフターコロナ」の環境実現に向け、地に足をつけて歩み始めたところです。

また、昨年は地球温暖化を直接肌で感じた記録すべき年となりました。国連総会において、グテーレス事務総長から「地球は沸騰時代に入った」との人類に喚起を呼び起こす発言が飛び出しました。海水の温暖化が進んだことにより魚類の生息域に変化が生じて、私たちの食卓にも変化の兆しが見え始めています。また、温暖化に影響を及ぼすとされる温室ガスの低減策として、代表的な例として牛肉から大豆ミートへの転換が海外において急速に進みつつあるとの情報があります。我が国では古来四季を貴び、夫々の季節に合わせて工夫し行動して、世界に誇れる「日本文化」を築いてきました。1年間で最も穏やかで過ごしやすいつ「春」と「秋」が短くなるのは誠に寂しい限りです。さて今年はどうなるのでしょうか。気がかりなところです。

今年は待ちわびた「第13回二十一世紀桜まつり」開催に向けて準備を進めています。コロナ禍で3年、コロナ感染対策を講じて屋外での開催を計画した第12回は降雨で中止と計4回の中止を経て、会場は矢口特別出張所及び区民センターに移して3月24日(日)に開催します。～絆・深めよう! 広げよう!～を合言葉にご来場の皆様方にお喜び頂けるよう知恵を絞っております。

ご来場の際は、地域の足「たまちゃんバス」の利用をお勧めします。終わりに当たり、各位のご健勝とご多幸を祈念して年頭の挨拶といたします。

11月5日(日)東京文化財ウィーク2023の一環として延命寺にて双盤念仏の第8回特別公開が行われました。この「双盤念仏」は東京都23区で唯一無形民俗文化財に指定されています。今回は「双盤念仏」を次世代に継承するためにも、地域の小・中学生にも鉦(かね)叩きを実際に体験していただきました。

講堂で、主催者の矢口地区自治会連合会会長山本幸男氏の開会挨拶で始まり、大田区教育長小黒仁史氏に祝辞を頂きました。引き続き、主任学芸員田島太良氏による文化財についてと今泉延命寺双盤念仏の歴史などの講話がありました。また、鉦叩き体験のため手拍子で練習を行いました。

その後、本殿にて大田区長鈴木晶雅氏の祝辞後、延命寺樋口威道住職の礼讃に続いて演奏が行われました。鉦や太鼓の迫力ある音を感じつつも、落ち着いた雰囲気を楽しむことが出来ました。

最後に小・中学生を含めた5組15名が鉦叩き体験を行い、練習の成果が出て上手に叩けたようです。これで少しでも双盤念仏に興味を持って頂けると幸いです。



集合写真

矢口トークは「みんなで話し合って、明るく楽しい町づくりをしていきたいと思います」という意味を込めてつけました。

大田区では「18色の緑づくり」を行っており、矢口地区では菜の花とジニア(百日草)を育てています。